

みんなの芸術学校～こどもホスピス芸術学校

こどもが自分らしく表現できる場をつくる

2025年度 活動報告

認定NPO法人あっちこっち

音楽・アートで笑顔を!



活動の理念と概要

一回一回の出会いを大切にすること。それが、こどもたちの力につながる

病院やホスピスでは、こどもたちの体調も気持ちも毎日違います。だからこそ、**今日の瞬間にいるこどもたち**を大切にしています。

その場に寄り添い、音や色や動きを通して心を交わす——それが、あっちこっちのアーティストたちが磨いてきた専門性です。

芸術活動は、病気や治療の時間の中でも**その子らしさ**がいきる場です。こどもたちが安心して表現できる時間を、医療・福祉・教育・地域とともに育てていきたいと思えます。

この活動を支えてくださるすべての方々に心から感謝を申し上げます。これからも、こどもたちの笑顔が生まれる瞬間をひとつひとつ積み重ねながら、活動の充実と発展を目指してまいります。

認定NPO法人あっちこっち 理事長 厚地美香子



みんなの芸術学校～こどもホスピス芸術学校とは

病院やホスピスで過ごすこどもたちに、**自分で選び、表現できる時間**を届けるプロジェクトです。治療中心の生活の中で、こどもたちは「選ぶ」「決める」「表現する」機会が限られています。私たちは音楽・美術・ダンスなどの芸術を通して、こどもたちが**自分らしくいられる瞬間**をつくります。

私たちが大切にしていること

こどもが「自分で選べる」こと

その日の体調や気持ちに寄り添うこと

家族も一緒に楽しめること

医療者と協働し、安全で安心できる環境をつくること

アーティストが現場で柔軟に対応できる力を育てること

概要

対象者	実施内容
入院・療養中のこども、きょうだい児、ご家族、医療・福祉施設関係スタッフ等	合同授業（音楽・美術・ダンス） 個別授業（体調・興味に合わせたオーダーメイド） オンライン対応、家族参加型プログラム グリーンカフェ・コンサート

開催場所	
神奈川県立こども医療センター	横浜市南区の小児専門医療機関。院内ボランティア組織「オレンジクラブ」と連携し、音楽やアートを通じてこどもと家族の療養生活を支援。
横浜こどもホスピス うみとそらのおうち	病児と家族が第二のおうちのように過ごせる場所。「やってみたい」を叶える施設として2021年11月オープン。
特定非営利活動法人 Small Step	「病気のあるこどもも地域の中で自立できる仕組みを創る」NPO法人。医療的ケア児・障がいを持つ本人と家族を保育・教育・地域参加の面から多角的にサポート。

参加アーティスト

この活動には、音楽・美術・ダンスのプロフェッショナルが参加しています。

こどもたちの表情や呼吸の変化を感じ取り、
その場で音や色や動きを変える——

通常の芸術活動とは異なる高度な対応力が求められる現場です。

アーティストの存在こそが、この事業の大きな強みです。



2025年度は、音楽・美術・ダンスのプロフェッショナル **23名**が参加しました。*五十音順

神奈川県立こども医療センター（合同・個室）

ヴァイオリン	市川友佳子 大久保初音 加藤小百合 南條由起
ピアノ	青木佑磨 秋山桃子 岩下真麻 早坂なつき 高橋美香子 田久保萌夏 松永悠太郎
ヴィオラ・ダ・ガンバ	加藤久志
チェロ	小宮哲朗
ダンス	ストウミキコ



横浜こどもホスピス うみとそらのおうち（ファミリーデー）

ヴァイオリン	大久保初音 岡田理佐子
フルート	檜原いちご
ソプラノ	中野亜維里
ピアノ	青木佑磨 岩下真麻 金井ゆり 田久保萌夏 内海清佳
美術	呉近竹 水沼洋華 森田尚恵
ダンス	ストウミキコ



横浜こどもホスピス うみとそらのおうち（個別授業）

チェロ	小宮哲朗
ピアノ	金井ゆり 辻田祐希 早坂なつき

Small Step（合同）

美術	水沼洋華
----	------

主催

認定NPO法人あっちこっち

音楽・アートで笑顔を届ける社会貢献団体。2011年設立以来、プロのアーティストとともに被災地・医療・福祉・教育の現場へ芸術を届けてきた。みんなの芸術学校はその主要事業のひとつ。登録アーティストは80名程。

2025年度助成団体

ナイキ・コミュニティ・インパクト・ファンド(NCIF)

ドコモ市民活動助成事業

公益財団法人公益推進協会 新井孝行基金

2025年度の活動概要とこどもたちの反応

2025年度は、「神奈川県立こども医療センター」「横浜こどもホスピス～うみとそらのおうち」「NPO法人Small Step～すもーるすてっぷ保育園 *病児受入保育園」の3つの会場で**音楽・美術・ダンス**のプログラムを実施しました。こどもたちがどんな体験をし、どんな反応を見せたのかの一例を紹介します。

音楽

会場日時：神奈川県立こども医療センター クリーン病棟(11月13日)

アーティスト：南條由起(ヴァイオリン)／松永悠太郎(作曲・ピアノ)

参加人数：未就学児2名、小学校低学年1名、小学校高学年2名、大人2名

開催内容：当日その場で曲を選べるように楽曲メニューリストを用意し、アニメやディズニー、クラシックなど、こどもたちのリクエストに応じて演奏しました。体験用ヴァイオリンを使った演奏体験も行い、病棟の環境に合わせて音量を抑えながら、生演奏の時間をつくりました。

こどもたちの反応：「次はこの曲!」と楽しそうに選曲し、歌いながら参加する姿が見られました。楽曲メニューを「持ち帰りたい」と言うこどももいて、ヴァイオリンの仕組みや音の違いに強い関心を示しながら、説明を熱心に聴いていました。体験後には「ありがとう」と声をかけてくれる場面もありました。



ここが良かった♪：音量制限のある病棟でも、こどもたちは静かな音を「感じ取る力」で受け止め、表情が明るく変化していきました。保育士からも「意欲的に参加していた」との言葉があり、生演奏が環境に配慮しながらも、こどもたちの心を動かす時間になっていたことが印象的でした。

美術

会場日時：すもーるすてっぷ保育園「美術体験」(4月11日)

アーティスト：水沼洋華(美術)

参加人数：小学校高学年2名

開催内容：こどもたちが考えた架空のお店のロゴを、紙やプラ板に描いて形にしていきました。ロゴの種類や意味を学びながら、自分のイメージを少しずつ形にしていける時間でした。

こどもたちの反応：最初は緊張していたものの、テーマを話し合ううちにアイデアが次々と生まれ、描く手が止まらなくなりました。完成した作品を見せ合う表情には、選んでつくる楽しさがあふれていました。

ここが良かった♪：こどもたちが夢中になる体験を通して、「考える・選ぶ・選択する」というプロセスが自然に育くまれました。



ダンス

会場日時：うみとそらのおうち ファミリーデイ(4月13日)

アーティスト：ストウミキコ(ダンス)／岩下真麻(ピアノ)

参加人数：オンライン 3家族(小学校低学年1名、小学校高学年2名、中学生1名、大人3名)
現地 5家族(小学校低学年2名、小学校高学年4名、中学生2名、大人9名)

開催内容：うみとそらのおうちでは、ピアノの音に合わせて身体を動かす参加型のダンスを行いました。こどもたちが鳴らした音にアーティストが反応し、動きが生まれていくプログラムです。

こどもたちの反応：「この曲、知ってる!」と声を上げながら動きを真似し、音に合わせてアーティストを“操る”体験に笑いが広がりました。保護者も自然に輪に入り、場全体がひとつのリズムに包まれていきました。

ここが良かった♪：リトミックスカーフや様々な楽器を活用した参加型プログラムとしたことで、対面・オンラインを問わず、参加者が主体的に楽しむ様子が見られました。

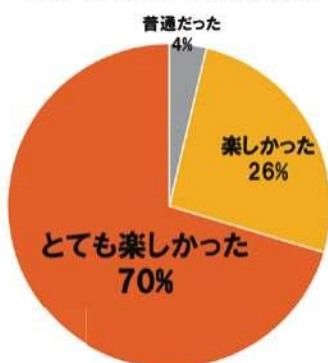


実施状況

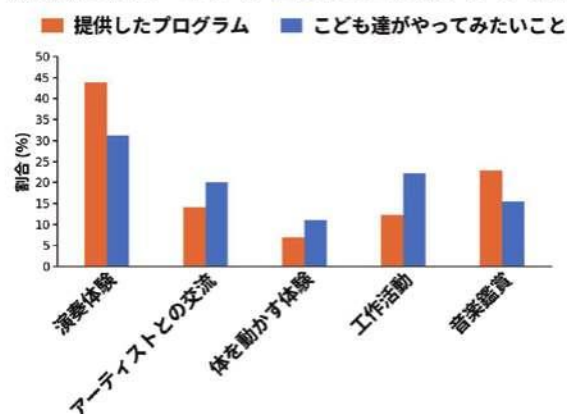
場所	形式	特徴	回数	参加者
横浜こどもホスピス	合同	月1回のファミリーデイに定期参加	12	未就学児～23歳とその保護者
	個別	こどもの要望に応じたオーダーメイド	4	
神奈川県立こども医療センター	合同 個室	病状に応じてプレイルームまたは個室で実施 きょうだい預かりでも実施	15	新生児～高校生とその保護者
Small Step	合同	通院・療養中のこどもたちへの初回実施	1	小学校高学年
合計			32	延べ256人

アンケート結果

こどもたちの満足度



提供したプログラムとこどもたちの希望



2025年度の分析・まとめ

アンケートでは、「とても楽しかった」「楽しかった」が合わせて96%を占め、こどもたちの満足度の高さがうかがえました。保護者からは「リラックスできた」「心が救われた」「大切な居場所になっている」といった声が寄せられ、芸術活動が家族にとっても安心できる時間となっていることが感じられました。

2025年度は、当日選択型の演奏形式を導入した音楽プログラムで、こどもたちが自ら曲を選び、主体的に関わる姿が印象的でした。アーティストの柔軟な対応や即興演奏が、こどもたちの気持ちに寄り添い、場の空気をやわらかくしていました。

芸術学校の活動は、こどもたちが自分らしくいられる場所として、静かにその意味を深めています。その積み重ねが、次の活動へと確かな力をつないでいく一年となりました。

5年間の実践から見えてきたこと

“選べること”が、こどもの力を引き出す

音楽でも美術でもダンスでも、
こどもが「自分で選ぶ」瞬間に、
表情が変わります。
曲を選ぶ、色を選ぶ、動きを選ぶ——
その小さな選択が、
こどもたちの“自分らしさ”を育てていました。



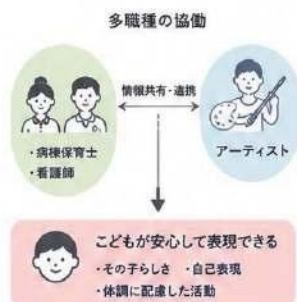
家族と一緒に過ごす時間が、こどもの表現を豊かにする

きょうだいでひとつの作品をつくる。
家族で誕生日を祝う。
お父さんがピアノの前に座る。
家族がそばにいただけで、
こどもの表現は広がり、
その時間は“家族の記憶”として残っていきます。



医療者とアーティストの協働が、安心できる環境をつくる

病棟保育士、看護師——
医療者との連携があるからこそ、
こどもたちは安心して表現できます。
アーティストは、
医療者の声を受け取りながら、
その日の体調に合わせて
音や色や動きを変えていきます。



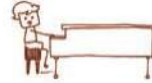
これからの展望

未来へ

これからも

こどもたちが“自分らしくいられる時間”を、
医療者・家族・地域の皆さんと一緒に育てていきます。

プロジェクトリーダー：岩下真麻 金井ゆり



現場の質を守るための“仕組み”を育てる

病状も環境も毎回違う現場で、こどもが安心して参加できる時間をつくるには、
アーティストの判断力と対応力が欠かせません。
そのために、どのアーティストが行っても、こどもにとって安心で質の高い時間を届けられるように、
「対応方法の共有」「ケースの振り返り」「医療者との連携」をさらに整えていきます。

アーティストが育つ環境をつくる

こどもの表情や呼吸の変化を読み取り、
その場で音や色や動きを変える力は、経験の積み重ねで育ちます。
研修や学びの共有を進め、アーティストが育ち続ける環境を整えることで、
こどもたちの時間をさらに豊かにします。

持続可能な運営へ——仲間とともに続けるために

助成金だけに頼らず、企業・団体・地域との協働を広げることで、活動を安定的に継続していきます。
協賛企業との連携、地域団体との協働、新しいプログラムの開発——
すべては、こどもたちに継続して芸術の時間を届けるための土台です。

横浜モデルを、全国へ

5年間で築いた

「合同・個別授業の組み合わせ」「医療者との連携」「アーティストの育成」「振り返りと改善の循環」
これらは、ひとつの横浜モデルになりつつあります。

理念を共有する地域とネットワーク型で展開し、認定NPO法人あっちこっちが伴走しながら、
地域ごとの特色を生かした形で広がっていきます。

この冊子は、

医療関係者の皆さま、病児・家族の皆さま、

そしてご支援くださっている企業・団体の皆さまに向けて、

2025年度の活動内容と、

現場で生まれた時間をお伝えするために作成しました。



認定NPO法人あっちこっち

〒231-0852 神奈川県横浜市中区西竹之丸61-5

090-1261-1308 info@acchicocchi.com

デザイン：木村直人